

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	さくら園 グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 11 月 7 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	グループホーム さくら園
所在地	鹿児島県大島郡知名町アギナ1949番地 (電話) 0997 - 93 - 0220

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成20年11月7日
評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	2 人
常勤換算	15.4

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	780 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 金連会 本部医院
---------	---------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

沖永良部島の西部に位置し、小高い丘の上にある、同一法人の特別養護老人ホーム、デイサービスの敷地内にグループホームさくら園がある。周りには、サトウキビ畑が広がり、遠く海を眺めることができる自然豊かな所である。ホーム内は、居室も廊下も広くゆったりとして木をふんだんに使い、落ち着ける雰囲気である。居室にはトイレと洗面所がすべてついており、利用者のプライバシーと清潔さに心を配っている。職員は利用者一人ひとりのできる力を引き出すことを心がけ、見守り・待つ介護を行っている。利用者・家族・職員・地域住民との繋がりも強く、同法人主催の行事には、地域全体で盛り上げ楽しく交流をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、特に指摘された項目は無い。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価票に基づいて、管理者と職員が数回に分けて一緒に話し合い、まとめ上げている。職員はケアに対して振り返る機会となり、利用者とのコミュニケーションの大切さを改めて確認し、ケアに活かすなどの取り組みを行っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	地域との結びつきが強いため、事務所の行事や地域の行事に利用者家族や地域代表、町職員などが参加することが多く、そこで意見交換することもあり、運営推進会議の開催は、今まで不定期な開催となっていた。今年度からは、2ヶ月に1度の開催に向けての取り組みが行われているところである。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	4月に法人の事業計画説明会と家族会の決算報告があり、それに合わせて家族会も開催している。家族会では会費を集めているので決算報告がなされ、家族からの意見ではお金は残さないで、他の費用にも当てて下さいという意見が上がるなど、家族の意見を聞き運営に反映させるようにしている。家族からの連絡も職員が申し送り簿で確認し共有している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	利用者が住んでいた地区の敬老会に参加したり、保育園の夏祭りや運動会に参加するなど交流をしている。また、中学校の職場体験を受け入れたり、小学生のボランティア、事業所で行う島唄会に家族や知人が聞きに来るときに、野菜を持ってきてくれるなど日頃から交流し連携を強めている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1自主性の支援、2自己決定の支援、3自立支援、4創意工夫、5地域との連携、共に喜び共に悲しむことのできる人間関係を築き安全で快適な環境で自由に楽しく、安定した生活が営まれるように支援します、という地域密着型サービスをふまえた基本理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年作成する事業計画資料に掲載したり、リビングに掲示したり、研修会で朗読、説明したりと共有している。職員は利用者が日常生活の中で、自分で出来るように見守り、出来た事実を喜びあえるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が主催する行事(夏祭り、敬老会、運動会)には、地域のかたも多数参加し盛り上げている。近所の保育園児との交流や小学生の慰問、中学校の職場体験の受け入れなどを行っている。また、月2回、第一ホームと第二ホームが交互で島唄会を開き、家族や知人が参加し交流を楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で、職員と管理者が数回に分けて自己評価票を読み上げながら一緒に話し合い確認している。職員は自己評価を通して、残存機能を活かすケアの必要性や、コミュニケーションの大切さを改めて知るなど、ケアの振り返りの良い機会としている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年10月より今までに不定期で3回の開催となっている。事業所の状況報告や事業経過報告を行い、参加者の意見交換を行っている。島の事情や地域性もあり日頃から集まって意見を交わす機会も多く、運営推進会議も不定期となっていたが、行政の指導もあり2ヶ月に1回の開催に向けて取り組んでいる。		地域との繋がりが強い島では意見交換の機会もあるため、参加者を募る困難な事情もあるが、省令で義務付けられていることもあり、運営推進会議の目的をよく理解してもらえるように働きかけ、多くの意見を頂けるように工夫されることを期待します。

鹿児島県 さくら園グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場とは近距離にあり、書類の書き方から何でも相談できる関係を築いている。事業所の行事にも参加してもらう機会もあり、情報の共有も行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りは年2回発行し、事業所内に掲示している。利用者の日々の様子は、家族の面会時や電話で伝えている。利用者が少し不安な様子が見られるときには、事業所の携帯電話で家族の声を聞かせるようにしている。金銭の預かりがある場合には、出納帳と領収書を確認してもらいサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から会費を集めているので、年1回決算報告をする時に家族会を開いている。家族会では、会費は残さずに他の費用に当ててほしいという意見があったが、具体的な意見は上がっていない。電話や面会時に家族からの意見や要望を受けたときには、申し送り帳に記載し、管理者に報告、相談し、職員と共有し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の場合には、出来る限り引継ぎの期間を取るようにしている。難しい場合でも、個人のケア計画表が詳しく作成されているので、すぐに支援に取り組めるように配慮している。ユニット間の異動は行っていないが、ユニット間の交流で職員とも顔なじみの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	島内での社会福祉協議会が主催する勉強会に参加している。外部研修があった場合には、参加した職員の研修発表を勉強会としており、法人全体の研修にも参加している。		職員が日々の支援の中で不足に感じた知識や技術を補っていくための研修内容を、職員の意見を参考にして、事業所の年間計画の中に取り入れ、職員の段階的、計画的育成を行うことで、サービスの質の向上につながる事を希望します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区研修や交流会に参加したり、島内の他のホームへの1日体験などの交流活動を行うことによって、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅からの入所希望者には、デイサービスを利用している方も多く、利用者と家族に見学に来てもらい雰囲気馴染んでもらうようにしている。可能な方には短期入所も行っている。また、入院している場合などは、職員が利用者を訪ねて馴染むように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>島言葉で会話するようにしているが、わからないこともありよく教えてもらったり、踊りを教わったり、昔の生活の知恵を教わったりして、感謝の言葉を伝えると喜ばれる。また、利用者のケアをしている時に「あなたのおかげよ」と言われると職員も心が癒されたりして、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者や家族と十分に話し合い意向の把握に努めている。困難な場合には、利用者個人についての記録帳を作っており、職員が日々のケアで気づいたことや、利用者が語った言葉や行動について記録してあるために、それを活用して利用者の意向に沿うようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当者が1年間、2人の利用者を担当している。個人のケア計画表で支援内容を決めており、職員は担当者会議や職員会議で支援内容についての意見や気づきを伝えている。介護計画は、利用者、家族、職員、主治医の意見を反映させたものとなっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化のない場合でも3ヶ月に1回は見直しを行っている。小さな変化については評価で書きだし、職員がわかりやすいように変更しているが、大きな変化の場合には、入院することが多く、家族と専門職の意見を取り入れ現状に合わせた見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制は行っていないが、かかりつけ医による月2回の往診や定期受診時の職員による通院介助を行っている。また、墓参りや外泊、帰宅介助の支援なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族や利用者十分に説明し、納得したうえで協力医療機関がかかりつけ医となっている。歯科などの専門的なものはそのまま希望する病院となっている。職員が受診介助をした場合には、変化がなければ面会時に報告するが、遠方に家族がいる場合には電話で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族から終末期の意向確認書を取っているが、その状態になった時には、また家族の意思を確認し、主治医と関係者と話し合い方針を決定している。事業所としては、家族の意向があってもターミナルは行えないことを伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各部屋に洗面所とトイレがついているので、プライバシー、羞恥心についての特別な配慮はしていない。記録物などは事務所に保管し、個人情報の取り扱いには注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握しており、畑仕事が好きな方には季節ごとの作物や花を植えるのを手伝ってもらったり、決まった時間に決まったテレビ番組を見る方、買い物に行く方、洗濯物を畳むのが好きな方、唄や踊り、鳥唄が流れると自然に手拍子と踊りが始まる。一人ひとりのペースで過ごしている。		

鹿児島県 さくら園グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの力量にあわせてハンダマの葉ちぎり、ネギの下ごしらえ、お膳拭き、配膳、下善などを行っている。メニューは法人内の管理栄養士が利用者の希望を取り入れ、バランスを考えたものとなっており、色彩良く盛り付けられている。食事中はBGMとして島唄が流れ、職員と会話しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週三回となっているが、本人の希望があればいつでも対応できるようになっている。午前中から夜は八時頃まで対応している。拒否する方には、活動し汗をかけた後などに声をかけるなどその方のタイミングに合わせている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を畳んだり、お膳拭きが自分の仕事として手伝ったり、島料理の味付けをしてもらったりと役割を持ってもらっている。楽しみごとは、神社の相撲大会や保育園児との交流、月2回行っている島唄会など、唄と踊りが楽しみであり、気晴らしの支援となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内の特養やデイサービスで催し物があれば見に出かけて行ったり、島内の思い出の場所や、お墓参りの希望があれば連れていっている。夏場の散歩は無理だが、気候がよければ計画なしで出かけている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、いつでも出入りできるようになっている。外出傾向にある人はないが、不穏になった時など無断外出時の捜査段階のマニュアルなどが作られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年2回夜間想定と昼間想定避難消防訓練を行っている。地域の方が訓練に参加していないが、役員に放送での協力をもらえるようお願いしている。特養には、消防署に直接つながる回線があり、備蓄についても特養で準備している。		法人内施設との連携はとれているが、世帯が大きいので地域の協力がなければ避難することも難しい。地域の協力体制を具体化できるように、運営推進会議などを通して、検討されることを希望します。

鹿児島県 さくら園グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量については、毎食チェックしケア記録に記入し、便秘との関連についてわかる様に状態を把握している。水分摂取が少ない方には、アロエ茶や黒砂糖と一緒にお茶を飲んでもらえるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花が飾られ、ホールの天井はたかく、やわらかな光が射し込んでいる。廊下も居室も広くとってあり、事務所や台所のカウンターは低く、圧迫感がないように設置してある。リビングには、昔の服や昔の生活の道具が飾られ、遠い昔を思い出す役目をしている。利用者はソファや長椅子に座り、思い思いの時をすごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、花の名前と鳥の名前がつけられている。居室内には洗面所とトイレが設置してあり、清潔さに気を配っている。ベットとタンスは備え付けだが、テレビやソファ、を持ち込み、壁には家族や楽しかった思い出の写真が飾られ、居心地良く過ごせるように配慮している。		